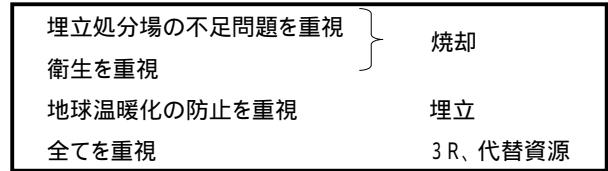
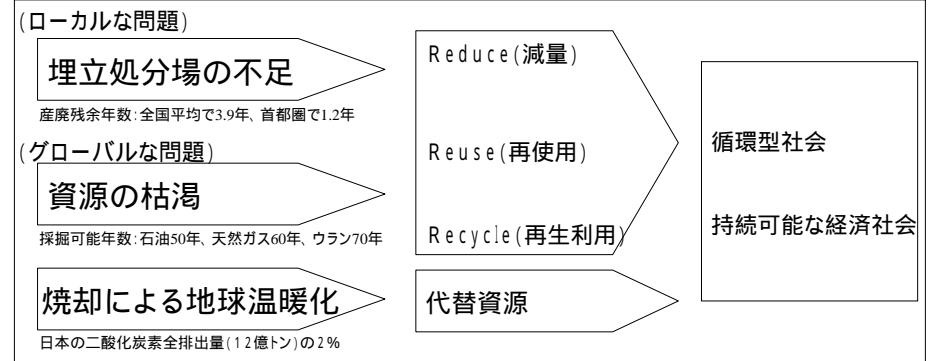


# 「事業者のための儲かる環境連続講座」 ～ 廃棄物関連規制の強化の動向～

1. 廃棄物関連規制の体系
2. 各種リサイクル法
3. 廃棄物処理法

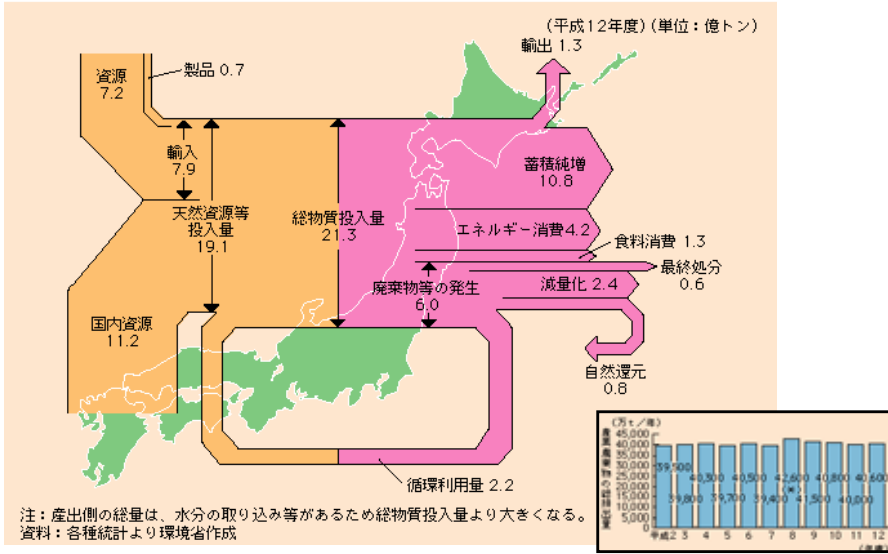
講師：環境カウンセラー 宇田 吉明

## 廃棄物問題の背景

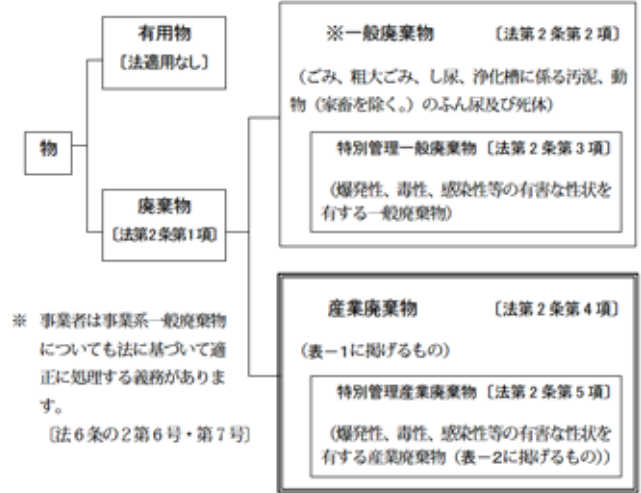


## わが国の物質収支と産業廃棄物排出量

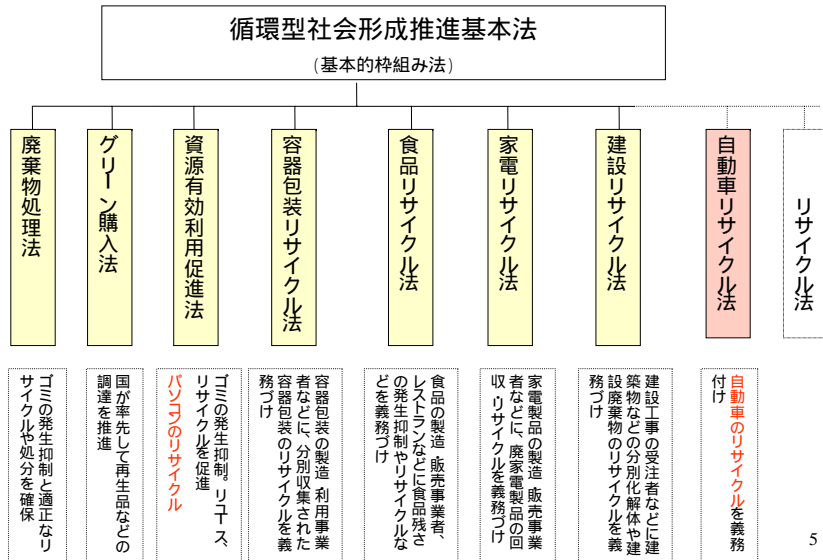
図1-1-12 わが国の物質収支



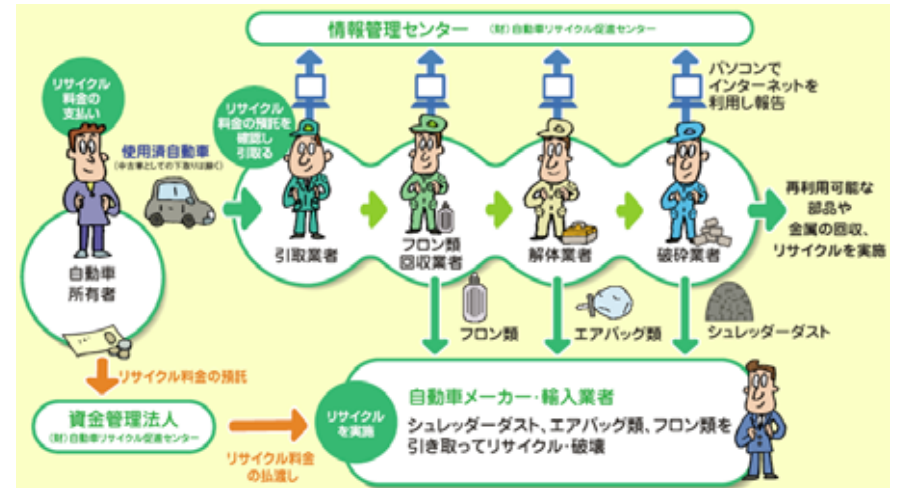
## 廃棄物の定義



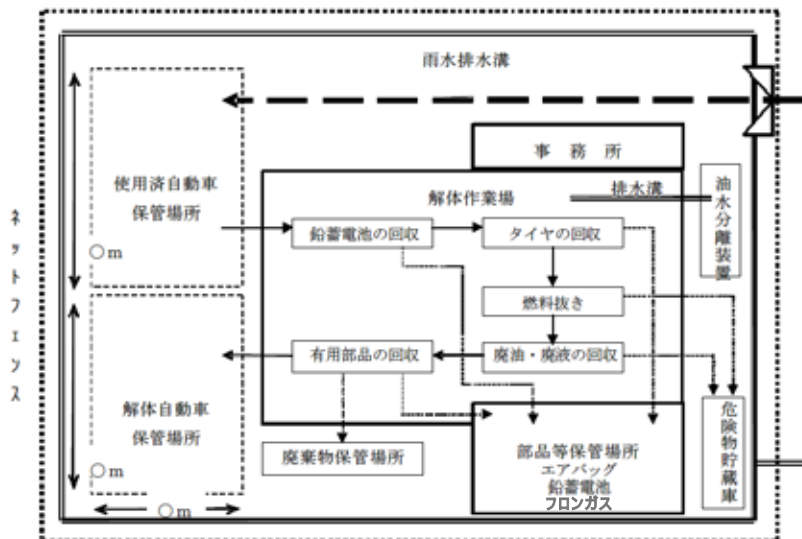
# 循環型社会への法体系整備



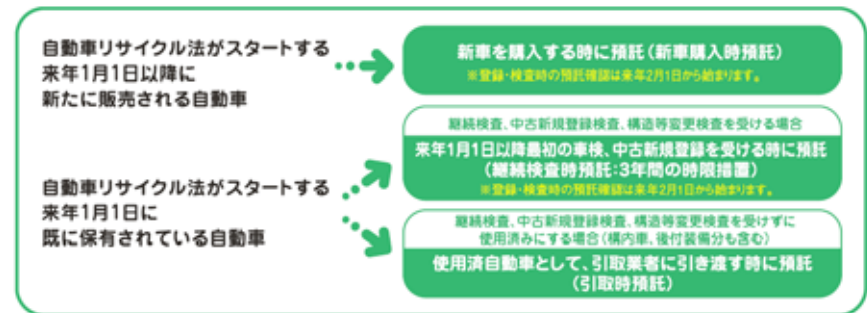
# 自動車リサイクル法の仕組み



# 自動車解体作業場

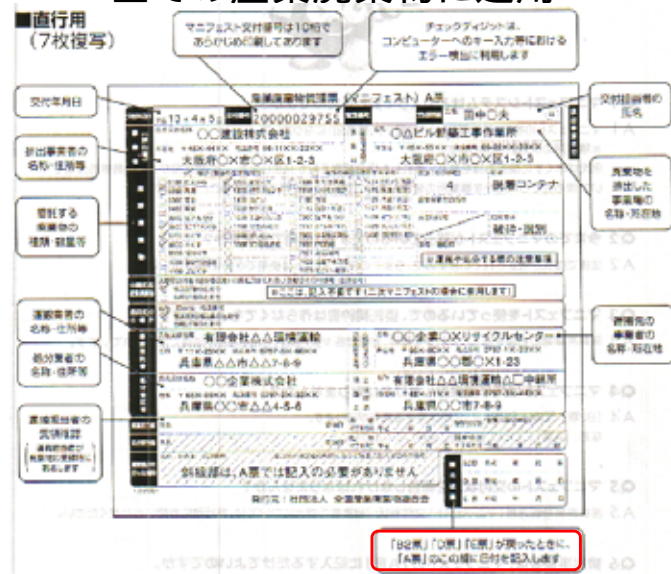


# 自動車リサイクル法の実施時期



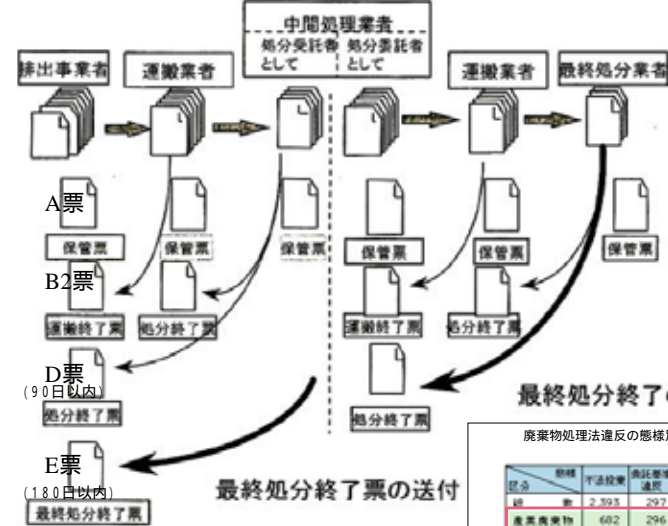
2004年12月31日までの廃車  
フロン券(2,580円をコンビニ・郵便局で購入して処分業者に渡す。  
(フロン回収破壊法の適用)

## マニフェスト ～ 全ての産業廃棄物に適用～



9

## マニフェストの流れ ～ 不法投棄とならないように確実に管理～



廃棄物処理法違反の態別検挙件数(平成14年度)  
(単位:件)

態別	不法投棄	委託管理違反	許可管理違反	その他	計
計	2,303	297	127	566	3,313
産業廃棄物	682	296	110	236	1,314
一般廃棄物	1,711	1	17	340	2,069

出典: 環境省

## 廃棄物処理法の改正

(抜粋)

廃棄物の処理及び清掃に関する法律の改正について

(一般廃棄物処理委託基準関係)

平成15年11月12日

経済産業省リサイクル推進課

産業廃棄物の処理及び清掃に関する法律の一部を改正する法律により、事業者が一般廃棄物の処理を委託する場合の基準等が新たに制定されました。

・・・本規定に違反して一般廃棄物の運搬又は処分を他人に委託したものは処罰の運用もあります。

特に、「木くず」、「紙くず」については、政令で定める建設業などの特定の事業者に伴って排出される場合は産業廃棄物となりますが、それ以外の事業者から排出される場合は一般廃棄物となります。

このため、一般廃棄物の処理を産業廃棄物処理業者に委託している事例については、廃棄物処理法の違反となることから、管轄の市町村に相談して、適切に処理をする必要があります。(以下省略)

11

## 廃棄物処理関連法規制

～ 排出事業者の責務抜粋～

項目	内容
保管管理	表示: 60cm x 60cm 対策: 漏洩、臭気、衛生
処理業者による適正処理	契約書の取り交わし ・許可業者の確認 ・有効期限の確認
マニフェスト管理	全ての産業廃棄物の委託処理に必要な
不法投棄の禁止	1億円以下の罰金
野焼きの禁止	原則禁止
焼却炉の規制	0.5㎡以上の焼却炉はダイオキシン類の測定義務
多量排出者への適用	産廃: 年間千トン以上(特管産廃: 年間50トン以上) 処理計画(減量計画)の届出・報告が必要

12